

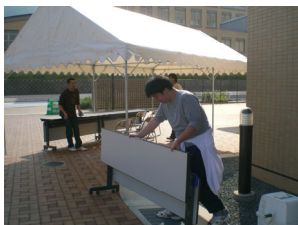
第11回全国山羊サミット in 京都

秋晴れの10月4・5日、全国山羊サミットが京都府亀岡市の京都学園大学バイオ環境学部< http://www.kyotogakuen.ac.jp/~o_bio/NEW/ > バイオ環境館で開催されました。



山羊サミットは、全国山羊ネットワークが山羊に関心を寄せる人々の情報交換と山羊の復権に向けてシンポジウムを開催したのが始まりで、毎年1回開催され、今年で11年目。関西での開催は今回が初めてということで、160人近くの参加者を迎えたサミットの様子は、翌日の京都新聞にも取り上げられました！ネットワーク世話人を務める付属牧場の北川先生をリーダーに、精鋭をそろえた(?)実行委員会。るり溪やぎ農園さんや「やぎのたまご」の高橋さんなどと共に、畜資の選りすぐりメンバーもスタッフジャンパーやTシャツ制作、前日からの設営、当日の受付や裏方仕事などなど大活躍してくれました。

ネットワーク前会長の長野先生、現会長の今井氏をはじめ、参加された多くの方々から、「学生の皆さんの動きがとても良かったお陰で、盛会になりました」とお礼の言葉がたくさん寄せられました。取りまとめの大石先生、お手伝いの皆様、本当にお疲れ様でした。



さて、メインとなる講演会では、座長として広岡先生、熊谷先生も応援に駆けつけて下さり、畜資メンバー総動員という感じでした。私も

『世界山羊会議からの報告』というテーマで講演させて頂きましたが、お土産として配った山羊キャラメルが功を奏したのか、「学会発表よりずっと良かった」との評が・・・(^_^;)

ロビーに設けられた山羊グッズ販売では、山羊乳製品やお菓子、小物などなど飛ぶように売られていましたし、我々がTシャツもそこその売り上げでした(まだ数枚残りがりますので、欲しい方は当研究室までご連絡下さい)。

その晩の懇親会も、100名以上の参加者の方々にお集まりいただきました。京都大学が開



発したビールの新作(ルビーナイル)の発表会もあり、北川先生の名(迷?)司会で大いに盛り上がりまし

た。2次会は、宿泊施設の都合上設けられませんでした。施設内のあちらこちらで有志のプチ2次会が催され、秋の夜長は、山羊談義に更けていきました。

翌日は、朝からあいにくの雨。予定されていた山羊肉BBQは、残念ながら中止になりましたが、多くの方々から雨の中、るり溪やぎ農園さんの見学に参加されました。試食予定だった山羊肉は、持ち帰りしたいという参加者の方々からの声もありましたが、皆さんにお配りするパッケージも保冷材もご用意できなかったのも、申し訳ないながら対応をお断りしましたm(_ _)m。山羊肉は、その後の打ち上げで無事実行委員メンバーの胃袋に納まりましたのでご容赦下さい。

来年のサミットは、新潟での開催が決定しています。今から楽しみです♪ (ようこ)



11月4日、十勝で初雪にあいました

目次:

～広岡先生の随筆@～ 2
⑩なぜ日本の若者はダメになったのか

70周年式典・祝賀会 3

祭りあと 3

受賞報告 4

Honduras goat production (3) 4

お知らせ 5

10月に入り、すっかり日が暮れるのが早くなりました。ある日の夕方、明るい夜空をふと見上げると、まだ低い空に大きなまん丸のお月様を見つけました。何年かぶりにススキとお団子で秋の十五夜を楽しみました。それから2週間ほどで那須の山頂を雪が覆い、山から吹き降ろす風が冷たく、冬の到来を告げています。日曜日には、たくさん家族やアフリカ人研修員と連れ立って、近所のお餅つき大会に参加しました。日本の田舎では、まだこうした風景が日常的に見られるのかと再認識して、ちょっと温かい気持ちになりました。(福島県西郷村より)

好評連載 広岡先生の随筆

⑩なぜ日本の若者はダメになったのか



最近、教育の世界でもスポーツの世界でも日本の若者の能力が低下したとよく耳にする。われわれの研究室では、そう強く感じたことがないが、確かにスポーツなどを見ていると、以前の若者のように根性のある若者が少なくなっていることに気づく。なぜ、このようなことになったのであろうか。日本の初等教育やスポーツ教育に何か問題があるのであろうか。



小学校の体育のかけっこの時間に、まず全員のタイムを計り、その後近いタイムの生徒を集めてかけっこをすることが、最近話題になっている。教育専門家の中には、この平等主義が問題なのだと指摘するものが多い。私は、この点については原因の一つであろうとぐらいに軽く考えていたのであるが、最近、耳を疑うような話を聞いた。私の娘の高校で、先日、古文の小テストの合計の成績が発表されたいが、何とトップ5人とボトム5人の名前が伏せられ、それ以外の生徒の成績が配られたそうである。この話を聞いて、今の教育の問題点の本質を見たような気がした。

そもそも成績の発表の仕方として、おそらく欧米であれば、発表するのなら、全員の名前を発表するであろうし、もし、部分的に発表すると言うのであれば、むしろまったく逆で、トップ5人とボトムの5人の名前が発表されるであろう。トップの5人に対しては、「よくがんばった。他の人も見習うように」というメッセージを、またボトムの5人に対しては、「何をしているんだ。もっとがんばらなければ大変なことになるぞ」というメッセージを込めての発表であろう。日本の場合には、「武士の情」の意識も働くかもしれないので、ボトム5人の名前を伏せて、他の生徒全員の名前が発表されたと言うのであれば、まだ理解できなくもない。しかし、なぜ、トップ5人の名前が伏せられなければならないのだろうか。

実はここに現在の日本の若者をダメにしている教育の病巣がある。今の若者の世界では、圧倒的に抜きん出ることが許されず、悪と見なされる。その風潮に、教育をしている大人まで迎合して、結局、若者をダメにするこの片棒を担いでいることになっている。

ところが、社会にでると、この圧倒的であることが非常に重要となってくる。現在のような厳しい競争社会の中で生き残るためには、圧倒的であることが唯一の王道である。たとえばわれわれの世界を考えても、助教を公募によって採用する際、一方の候補者が論文を5本、他方の候補者が論文を7本持っていたとする。この場合、論文を7本持っている方が選考されるかと言えば、必ずしもそうではなく、コネや選ぶ方の思惑などが複雑に絡んで、結局、運・不運の世界に引きずり込まれてしまうことになる。そのような際に、後者の候補者が論文を20本持ち、しかもそのほとんどが筆頭著者であれば、運・不運の要素は入り込む余地はなく、文句なくその候補者が選ばれることになる。たとえ、万が一、日本的なコネの要素が強く入り込んで、論文数の少ない方の候補者が選ばれたとしても、その候補者は一生後ろめたさと引け目という十字架を背負って生きていかなければならないことになる。また、選んだ方も、生涯、罪の意識に悩むこととなる。

それではなぜ、若者の社会では圧倒的であることが悪なのであろうか。この点については、いろいろな理由が考えられるが、負けた相手に対する誤った過剰の「思いやり」の意識があるのかもしれない。しかし、このような圧倒的であることを排除する社会では、決して大きな進歩は望めない。人は、圧倒的な力のもとで決定的な敗北を味わった時に初めて、根本的に敗北の原因を考え、努力して克服しようとするものである。確かに、決定的な敗北を味わった時に、やる気をなくすこともあるのかもしれないが、もしそうであれば、早期に他の道を見つける方がその人にとってはよい選択なのかもしれない。また、圧倒的に勝った方も、そのことがより高いレベルでの競争にチャレンジする原動力になる。微差で勝っても負けても、そのような根本的な改善は期待できないものである。

私は、これまでこのシリーズで人生の運・不運について何度か書いてきた。確かに、人生の多くは運・不運に左右されるものである。しかし、圧倒的な力を持った時にのみ、その運・不運の世界から開放されることになる。したがって、そこそこのレベルで満足するのではなく、圧倒的になるまで、弛まない努力をすることが、最も重要で肝心なことである。

広岡博之

創立70周年記念式典・祝賀会



今
古
京都大学農学部 畜産学研究室
創立70周年記念式典・祝賀会会場

10月12日、京都グランピアホテルにて京都大学動物系研究室の創立70周年記念祝賀会が開催されました。参加者はなんと200人以上にもなり、壮大な祝賀会になりました。祝賀会はずまず歴代の教授陣4名から動物系の研究室の歴史についてのお話がありました。その中には畜産資源学研究室の先代教授の宮崎先生、そして現教授の広岡先生も含まれていました。動物系のこれまでの歴史については普段あまり知る機会がなかったので、興味深く聞かせてもらいました。



そして、その後はビュッフェ形式の食事会になっており、ホテルの食事を満喫しました。学生は普段ホテルの食事を食べることはまずないので、学生の参加者は食べることに必死になってましたね。僕が祝賀会の良かったと思ったところは先輩の卒業生に会うことができたことです。他の参加者の人たちもこの機会に普段なかなか会えない人に会えたのではないのでしょうか。祝賀会が終わってからも2次会が各地で行われていたみたいで、相当盛り上がったと思います。畜産資源の2次会も最後はタクシーで帰るほどでした。次の祝賀会は100周年でしょうか。だいぶ先の話ですね…。 (記者N)



祭りのあと

10月17日、京都大学付属牧場にて山羊サミットの打ち上げが行われました。山羊サミットでは2日目にバーベキューが予定されていましたが、雨天中止になってしまったので、そのとき食べられなかった山羊肉を打ち上げで食べることにしました。参加者は山羊サミットの実行委員会メンバーで、畜産資源からは大石先生、酒井君、西尾の三人が参加し、合計10人ほどでこじんまりとバーベキューをしました。バーベキューは外ですることにしたのですが、さすがに10月中旬にもなると園部ではかなり気温が低く、炭の周りに張り付いていないと耐えられないほどでした。さて、メインの山羊肉ですが、においをさほど感じることなく美味しく頂きました。ただ、量が人数に対してあまりに多かったため、完食はできませんでした…。バーベキューでは山羊肉以外にも北川先生の奥さんがつくってくれていたサラダや枝豆を美味しく頂きました。特に、枝豆の豆は黒豆で、とても贅沢でした！バーベキューでは、今回の山羊サミットの評判が良かったと皆さん仰っていました。お手伝いとして参加した学生達もとてもよく動いてくれていたと言ってくれましたよ！ (記者N)

山羊で農村開発②



家畜改良センターでのアフリカ人研修は、ちょうど2ヶ月を終えました。長野から沖縄へ移動した研修員は、琉球大学の先生方から講義を頂いたり、飼育現場を見学したりと楽しんだようでした。福島に移ってからは、農村開発とプロジェクトの立案、改良普及事業についてなどの講義や実習を受けて、毎日忙しく過ごしています。研修員の意欲の高さと協調性には学ぶところも多く、一人ひとりがきちんとした大人であると感じさせられます。

休日には、自転車で白河市内観光(小峰城や南湖公園)をしたり、お琴とお茶の会に参加したり、餅つき大会に参加したりと文化交流にも動んでいます。家畜改良センター主催のふれあい祭りでは、アフリカの音楽と踊り、マサイの衣装とパーカッションで会場を盛り上げるのに一役買ってくれました。研修所から自転車で10分ほどのところにある郊外型のスーパーマーケットでのショッピングも大きな楽しみようです。夜は、ビール片手にビリヤードまたはお部屋でインターネット。来週からは、帯広での綿羊飼育と生産物加工の研修、筑波での研修報告書のまとめと帰国後の計画書作成の後、帰国となります。あと残り2週間、日本で吸収したものを母国の人々に還元できるよう、頑張ってください。(ようこ)



楽翠苑での十三夜月見会

福島県白河市に、日本最古の公園と言われる南湖公園があります。約200年前に白川藩主松平定信が「四民(士農工商)共楽」の思想の基、身分に関係なく人々が憩える場所として造成したそうです。10月12日、公園内の翠楽苑でお月見がありました。お琴の演奏と呈茶を楽しみました。



コラム：一言一考 ⑧

「運命と宿命」

運命は己の力により運ぶことはできるが、宿命は生まれながらの定めであるため結果的に従わざるをえない。正確には、知ると知らずに関わらず、どの人にも宿命と運命があるのではないであろうか。人が努力で持ってこられるのは現実の一部である。

(明太子)

受賞報告。

この度ハノイで開催された第13回AAAPでは非常に名誉な賞をいただくことができました。賞をいただけるとは全く思っておらず、クロージングセレモニー会場に入ったところで入口の張り紙に受賞者の名前が張り出されていて知りました。ほんとうにびっくりです。数多くのポスターを審査しその中で評価していただいた審査員の方々に心より感謝します。

今回の受賞は私個人のことはもちろんですが、ネパールで調査研究に関わった全ての方々の苦勞が報われたことが何よりうれしかったです。あまりにも多くの方々なので紙面においては書ききれませんが、皆さんに口頭とメールにてお礼を申し上げます。ありがとうございます。そして、ネパールの国立大学の修士課程学生であるManoj君(写真右)。彼は調査農家を私と一緒に回り本当に多くの協力をしてくれました。そして私の親友です。彼は今回熊谷先生と私から資金のサポートを得て学会に参加し、私の調査のもうひとつのテーマであった「ネパール国の酪農家における給与試料中の栄養素の推移」について発表をしてくれました。日本にいる私とネパールにいる彼とはコンタクトがとりにくいため発表準備がなかなか進まず、最後にはスライドの修正を会場でも行うなど大変だったのですが、本番の発表で立派に発表している彼の姿をみて来てもらってよかったと思いました。ネパールで初めて会ったときは、まさかこんな日がくるなんて想像していなかったので素直にうれしかったです。加えて私が受賞したことにより会場と一緒にお祝いの写真を撮ることができました。この写真は一生の思い出です。

実は受賞に伴い賞金300ドルをいただきました。これで帰国後は研究室の皆さんに大盤振る舞い、と一瞬考えたのですが、個人的な気持ちとして経済的にそれほど恵まれないManoj君の今後の博士号取得さらには研究者として育つために使いたいと思いますので、研究室の皆様ごめんなさい。

あわせて学会期間中はベトナム料理の美味しい店を紹介いただくなどたくさんの方々のお世話になりました。改めてここに感謝を表したいと思います。お陰様でハノイの5日間の学会は楽しい思い出で一杯です。ありがとうございました。



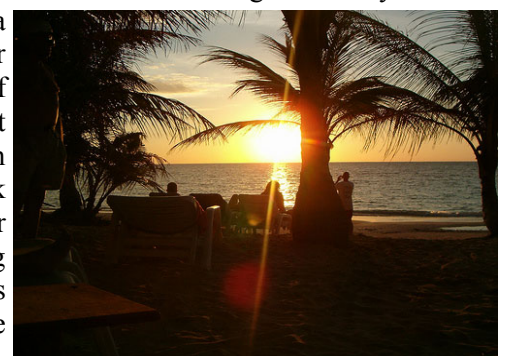
Honduras goat production; International and local goat production promotion programs and their role with local farmers

Honduran Goat production; A review of actual production condition (3)

Often, programs are donor of the obligations of the donor organization and the beneficiary are outlined in a form signed by the beneficiary. The beneficiary had to repay the donor organization with the first female offspring and build a goat house. The beneficiary also is encouraged to plant grasses for the goats and participate in complementary projects such as vegetable gardens. The donor organization provided limited follow-up services. These services varied and included: assistance with sick animals, providing bucks for breeding, occasional treatments for parasites, and providing veterinary supplies at cost when available. In addition, if the distributed doe did not conceive, the organization replaced the doe. One limiting aspect is that the donor organization mostly does not have anyone on staff trained in goat management and did not offer training classes to the beneficiaries. Therefore, there are no one available to answer questions regarding nutrition, health, and reproduction. For this reason, problems with the main breeding buck are not identified, mastitis infections, cuts, and illnesses are often untreated. Also, because of

a lack of trained personnel, there are no one available to identify feed alternatives that were within the resource base of the beneficiaries. All of these factors led to low production levels and high mortality levels.

The lack of a clear definition of the target population and the lack of criteria for selecting households caused some



Roatan Island, Honduras. Source: www.flickr.com

inconsistencies in the selection process. Sometimes when the application is evaluated, it may found that the young children were not malnourished. Another household that received a goat, are sometimes one of the wealthiest households in the community. A more rigorous application process could prevent inconsistencies like this from occurring.

(to be continued...)

Department of Animal Husbandry
Resources, Kyoto University,
Faculty of Agriculture
Oiwakekyo, Kitashirakawa,
Sakyo-ku Kyoto 606-8502 Japan

Tel: (+81)-75-753-6363

Fax: (+81)-75-753-6373

http://www.animprod.kais.kyoto-u.ac.jp/

GOAT BULLETIN



GOAT BULLETINは、皆様の投稿記事で成り立っています。形式・文字数は問いません。また、読者の方々からのご意見やお問い合わせも受付中です。下記のアドレスまで送信してください。

E-mail: yoko3t@kais.kyoto-u.ac.jp

お知らせ

今月のゼミ

今月のゼミは、

- 11月 5日(水) 西尾
- 11月12日(水) イクバル・児嶋
- 11月19日(水) 学生実験
- 11月26日(水) 竹内・木村

の予定です。教室はW-210で、時間は14:45~16:45です。

なお、11月20日(木)にしニンさんと田端さんの博士論文発表会があります。皆さん奮ってご参加下さい。また、変更等がありましたら、逐次お知らせいたします。

ゼミ係

【秋の風物詩といえば】

読書の秋、スポーツの秋、食欲の秋・・・などと替で囁かれる秋という季節でございますが、青春真っ盛り(?)な若者を抱える大学ではさらに「学祭の秋」も付け加わるのではないのでしょうか。京都大学では、11月祭という大学祭がその名のとおり11月に行われています。今年の日程は11月20日(前夜祭)、21日~24日(本祭)。われらがはくび会は今年も前夜祭に模擬店を出店するつもりようです。日頃の交流を深めるもよし、冬に備えてたんぱく質を徒らに摂取するもよし。どうぞ奮ってお越してください。

(うな)

2008年 11月

日	月	火	水	木	金	土
2	3	4	5 椎野・木村 体重測定・予防注射Ⓞ	6	7	8
9	10	11	12 大石先生・柳 体重測定・予防注射Ⓞ	13	14	15
16	17	18	19 西尾・竹内・児嶋 体重測定・予防注射Ⓞ	20	21	22
23	24	25	26 イクバル・酒井 体重測定・予防注射Ⓞ	27	28	29
30	12/1	2	3	4	5	6

編集後記 ここ数ヶ月、日本の山羊関係者の方々に頻繁にお会いしています。『Goat Bulletinにも書いてあったね~』『楽しみにしてるよ』なんて声を掛けられることもあり、嬉しいです。外部読者の方々かどのくらいいらっしゃるのか、一度調べてみたいですね~(^^)。ここにも、いつの間にかネットワークが構築されているのかもしれませんが。どんな一言でもお寄せいただくと励みになりますので、どうぞ感想や取り上げて欲しいトピックスなどありましたら上記アドレスまでご連絡下さい~☆